

# コミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成 ～自分たちや地域のことを話題にして、英語でやりとりができるために～

## PROFILE

### 直島小学校 なおしましょうがっこう（香川県香川郡直島町立）

直島町は、直島本島を中心に瀬戸内海の自然豊かな大小27の島々からなる群島です。その地名は、崇徳上皇が保元の乱の後讃岐へ配流されたとき3年間住まれ、島民の純真素朴さや素直な心を称賛して「直島」と命名したと伝えられています。近年「現代アートの島」として世界の注目を集め、国内外から多くの観光客を迎え、日常的に外国人を見かけるようになりました。直島小学校では、昭和63年度から町独自にALTを招き、28年の継続で外国語教育に取り組んでいます。



## ① はじめに

直島町は人口約3100名の静かな島ですが、瀬戸内国際芸術祭の開催とともに観光客が増え、特に海外からの訪問者が多く、日常的に外国の方々を見かけるようになりました。子どもたちも道を尋ねられるなど、外国の方と接する機会が多く、他の地域以上に、国際感覚を身につけることに必要感のある生活をしています。

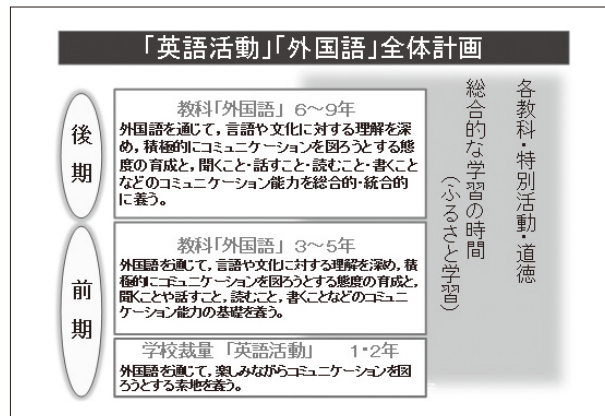
本校は、隣接する幼児学園・中学校と、昭和51年より幼小中一貫教育を進めています。コミュニケーション能力の育成が共通する課題であり、中学3年生のときに「自分たちや地域のことを話題にして英語でやりとりできる」姿を目指し、昭和63年度から町でALTを招き、外国語教育を通してその育成に取り組んできました。

さらに、平成14年度からは「5・4制」を取り入れた小中連携をスタートし、小学校6年生が中学校に行き、中学校教員から外国語を学ぶことを継続しています。

平成26年度までに「文部科学省指定研究開発学校」を3回、現在は、平成27～30年度「文部科学省指定教育課程特例校」を受け、英語活動や外国語の研究推進に取り組んでいます。

## ② 特色ある教育活動

### (1) 小中9年間を通した英語のカリキュラム編成



小中一貫の教育課程として、小5までを「前期」、小6～中3を「後期」と考え計画を進めています。

小1・2では、英語の音声やリズムに親しみ素地を育てる英語活動を年間34・35時間行います。

小3からの教科「外国語」は、教育課程の特例を活用し、総合的な学習の時間から時数を確保して年間35時間、小5・6は年間70時間で、小5は英語の免許をもつ外国語専科とALTで、小6は中学校で、中学校外国語教員とALTで指導を行っています。

## (2) 直島小中学校外国語学習指導指針

### 学習内容 四領域の言語活動 「直島小・中学校外国語学習指導指針」作成

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」から設定

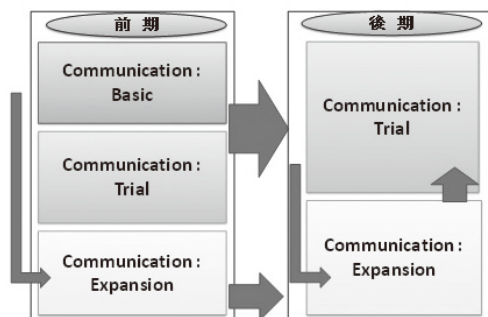
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
聞くこと									
話すこと									
読むこと									
書くこと									

地域発信型単元

小1では「聞くこと」「話すこと」を中心に行いますが、アルファベットなどの文字にも日頃から自然に触れるようにしています。それが素地になり、小3からは「読むこと」「書くこと」の4技能を扱い、教科や総合的な学習の時間と関連した「地域発信型単元」の地域をテーマにした言語活動を中心に行っています。

### (3) 3つの視点に基づいた単元構成

#### 3つの視点に基づいた単元構成



#### □ Communication: Basicについて

音声やリズムに親しみ、コミュニケーションの基礎を学ぶ単元で、基礎的な文字学習も行います。

Communication : Basic  
英語の音声やリズムに慣れ親しみ、  
コミュニケーションの基礎を学ぶ単元

1年 「よろしく」

Back to Back  
背中合わせ  
↓  
振り向けば  
会話の場面



#### □ Communication: Trialについて

前期では、設定した場面の中で基本表現を使う活動で、自分が知りたい表現を増やし、使いながら身につけていきます。後期では、テーマに向かって自分の思いを表現する過程で学びを深められるようにします。

Communication : Trial  
基本表現を使って活動しながら  
自分が知りたい英語表現を増やして使う単元

4年 「ワールドレストラン」

注文場面を  
繰り返しながら  
英語表現を  
増やしていく



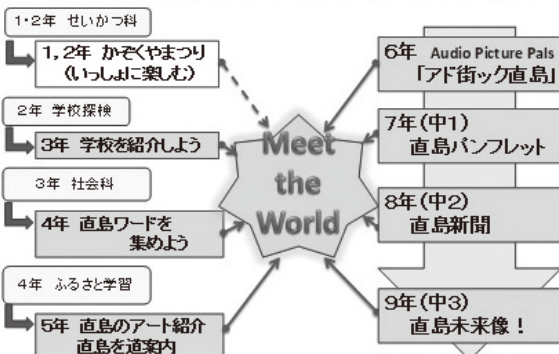
#### □ Communication: Expansionについて

地域発信型単元として、自分たちの生活や文化、地域をテーマに、実際に英語で受信・発信する学習を取り入れます。総合的な学習の時間におけるふさと学習や教科での学びを生かして、自分達や地域のことを伝えるために、TV電話を使ったオーストラリアの小学校との交流や、全校生での交流行事を行います。そして、学習内容を発展充実させるために、各自が直島ファイルを作り、学習内容を振り返り活用できるようにしています。

交流行事「Meet the World」では、学校、地域にあるアートや伝統行事人々の暮らし等、それぞれの発達段階にあった表現方法で、外国の方に英語で伝えます。

#### 小中連携 地域発信型単元

「総合的な学習の時間」の「ふさと学習」の学びを生かして



## □ Meet the World

ふるさと学習と外国語の学びの成果を試す機会として、毎年11月末～12月初旬頃、県内のALTや教員に呼びかけ、小中合同で行う交流行事です。午前中は、小中各校にて学年ごとに準備したゲームや日本文化の紹介を、午後は小5・6と中1・2が直島のアートのスポットに一緒に出かけて英語でガイドするプロジェクトです。各学年で楽しい交流活動があり、自分の英語が通じる楽しさを味わっています。



手作りゲームを一緒に楽しむ2年生



お店の商品を買ってもらう3年生



身ぶり手ぶりを交えて観光スポットを説明する5年生

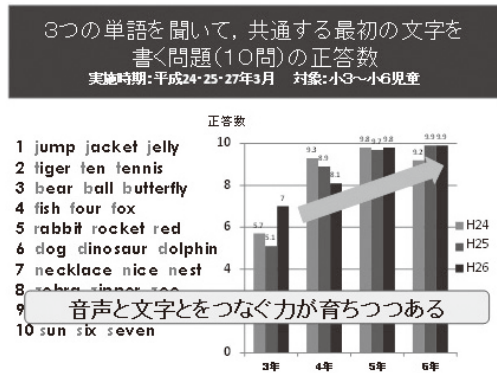
毎年ALTによる評価は高く、平成28年度アンケートでは、下記のようになっています。(28名のALT)

	Excellent	Good	So so	Poor
English	20	8	0	0
Attitude	27	1	0	0

## 【感想】

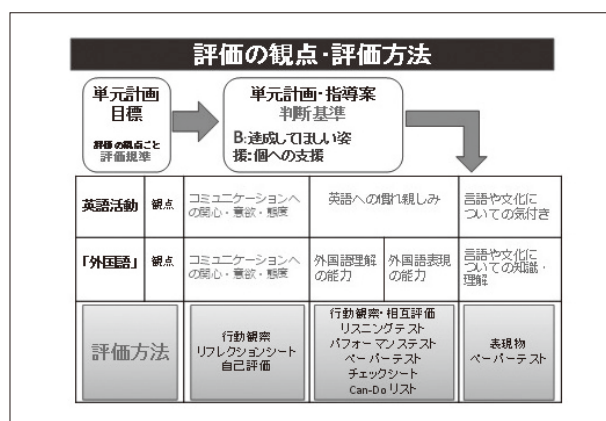
- ・The students were very energetic and were willing to use the English they have learnt. When they didn't understand, they would ask their friends for help. They tried hard to answer my question! Very good everyone!!
- ・They tried very hard to use English. The students were very friendly. I had a great time. I look forward to it next year, too.

## (4)「読むこと」「書くこと」



音声中心に学習しながら文字学習も実践しています。データからも、児童は抵抗なく少しずつ文字に親しみ、音韻認識の力が育ってきていることが分かります。

## (5)評価について



評価の観点として、小3からの教科「外国語」では、4観点「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語理解の能力」「外国語表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」にしています。評価方法は、関心・意欲・態度については行動観察・リフレクションシート、自己評価。



表現・理解の能力については、行動観察・相互評価・リスニングテスト・パフォーマンステスト・ペーパーテスト・チェックシート(Can-Doリスト)。言語や文化についての知識・理解については表現物・ペーパーテストによる評価を行っています。

第6学年 Can-Doリスト		
後期の内容	6年生の内容と既習時を想定したCan-Doリスト	各単元の評価規準
ア 活動、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること	ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの単語や簡単な表現の聞き取りができる。 初歩的なクラスルームイングリッシュを聞いて理解し、行動することができる。	L6 リスニングテストの中で、野菜、動物、学用品、動物、色、形の語彙を聞き取ることができる。 L8 グループの発表を見て伝えたいことを理解することができる。
イ 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること	なじみのある簡単な内容を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞いて理解することができる。	L1 先生や友達の自己紹介をよく聞いて理解することができる。 L4 友達や中学生の質問の内容を聞いて理解することができる。 L6 会話を聞いてどのような場面かを理解することができる。 L7 キーワードや聞き取れた単語から紹介の概要を理解することができる。 L9 教科書の分枝を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。 L11 相手の話を聞いて、理由を理解することができる。
ウ 質問や依頼などについて、適切に応じること	先生や友達から、好き嫌い、趣味、したことに関する質問や会話、または、自己紹介や他者紹介を聞いておおむね理解することができる。 相手に出席する時間を理解することができる。 現在の時刻や、起きたら寝たい時間に関する質問や会話を聞いておおむね理解することができる。	L1 相手が言う自己紹介が分かる。 L3 相手が出席する人数、大さき、性別、年齢、国籍、職業、趣味、通称などを知ることができる。 L10 動作を表す語句を聞き取ることができる。

※ 各単元の評価規準の L ( ) は、直島小中学校外国語指導指針の各学年の学習目標と一致しています。

単元計画表【学習展開の視点・目標・評価規準と評価基準】			
6年	Lesson7	時数	8 類型 CE 10月
	アド街ックイン直島 AUDIO PICTURE PALS		
学習展開の視点	本単元は、小・中学校で継続実施する「地域発信型単元」に当たる。これまでの経験を生かして、P・Kネットの屋外アーチについて英語で紹介する学習をする。そして、11月来に行われるMeet the Worldでは、ALTとアートをめぐるだけでなく、それぞれのアーチについて実際に紹介することへとつながる。人々を紹介するための基本表現を身に付けるとともに、相手を意識して、英語やジェスチャー、繰り返しや強調などの工夫をしながら伝えることを学ぶことで、コミュニケーション能力を高める。		
目標	・ P・Kネットの屋外アーチについて、基本表現などを覚えて説明することができる。 伝える内容や自分たちの思いが相手に伝わるように工夫して、意欲的に練習する。		
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語理解の能力	外国語表現の能力
評価規準	友達と協力しながら、よりよい表現になるように紹介文を書くこととしている。	キーワードや聞き取れた単語から、紹介の概要を理解できる。	基本表現などを見て、アートの紹介の文を書くことができる。相手に伝わるように工夫して紹介している。
評価	友達と協力しながら紹介文を書いたり、発表方法の工夫を考えたしている。 (発表観察)	キーワードや聞き取れた単語から、概要を理解することができる。 (発表観察)	基本表現を適切に用いて、紹介文を書くことができる。相手に伝わるように工夫して紹介している。 (発表観察、ワークシート)
評価方法	提示参考になる友達の様子を紹介する。	提示参考になる友達の様子を紹介する。	提示参考になる友達の様子を紹介する。

自律的な学習者をめざして、児童は毎時間また単元末にリフレクションシートで自分の学習を振り返り、パフォーマンス評価を通して互いに学び合います。

自律的な学習者をめざした評価

リフレクションシートで自己評価

パフォーマンス評価で学び合い

自分の姿を自分で評価

チェックシート・Can-Doリストで自己評価

項目	評価
1 ALTが話す趣味・音楽・スポーツなどに関心することができる。	
2 日常的な英語であれば、はっきりと自分に向かわれてきたことを理解することができる。	
3 教科書の英文を開いた時に、思った後であれば、解することができる。	
4 聞く、はっきりとした簡単な店内の会話やアナ	

### ③ 外国語教育を支えるために

#### (1) 外国語や外国文化に触れる機会

毎日13:45～14:00は「English Time」として、Picture Dictionary等のCDを使って活動し、身のまわりの語彙を増やすようにしています。毎日確実に英語に触れることで、楽しみながら抵抗なく英語に親しんでいます。

また、給食時の放送で月ごとに学年の単元に関連した英語の歌を流したり、教員による外国旅行体験を紹介する「World View」集会(年4～5回)や日々の学びを発表したりする英語集会も行っています。

#### (2) 教員研修

本校独自の教育課程に沿って指導するためには、教員研修により指導力向上を図ることが何より大切です。教員の指導力を高めるには、理論研修、指導法研修、英語力向上研修が必要です。効率よく進めるために、4つの研修に分けて、目的をはっきりさせて研修しています。

研究授業を基に、研究の方向性を共通理解する全体会、研究授業の事前研修を通して指導法を学ぶPre研修。月1回、児童生徒の何を育成するかを確認しながら次の月の単元計画を立てるplan研修。教員自身が英語を使う体験をする自主研修、REACTです。時間割上に位置づけた担任とALTとのミーティングそのものも研修です。

教員は、授業をするほどに、自分自身の英語力の向上を図りたいと考えるようになってきます。

ねらいをもった研修を年間を通して

Pre研修

全体会

理論

指導法

REACT

英語力向上

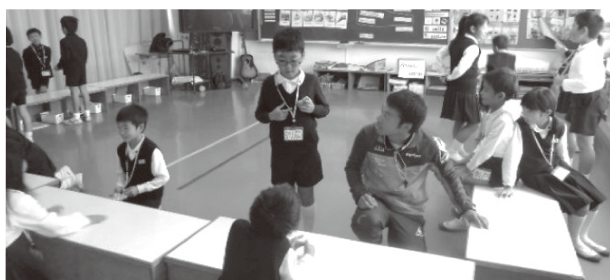
ALTとのミーティング

Plan研修

### (3) 国際理解教室の教材・掲示物等環境の充実

毎回の授業は、ここでALTとT・Tで行い入室と共に英語スイッチが入ります。長年かけて教材・掲示物の環境整備を行い、後方の棚には単元ごとの教材があります。

また、教材机椅子兼用のロッカーベンチで、下にはカゴに入った学習グッズがあり、移動や隊形変化等において、様々な学びに対応できるものになっています。



ロッカーベンチを効果的に使った学習の様子



教室後ろには単元ごとに分けた教材を整理しています

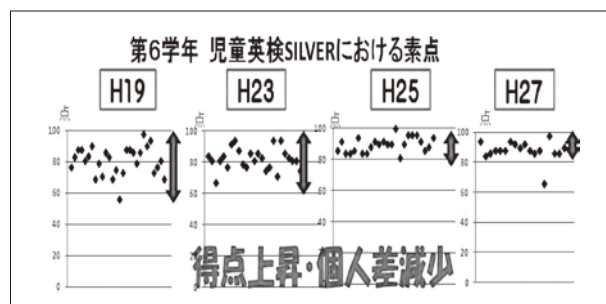
## 4 成果と課題

### (1) 成果(児童・保護者アンケート、児童英検より)

- ・ 児童アンケート『外国語の授業は好きですか』  
毎年95%以上の肯定的意見で、平成28年度は、100%の結果になりました。
- ・ 『外国語の授業は大切ですか』  
平成28年度は100%になり、理由として「英語を覚えると外国の人と話すチャンスになる」「言うのが好きで楽しいから」「外国に行くときに役に立つから」「直島には外国からの客が多く道を聞かれたら話せる」などがありました。
- ・ 『どのような活動が好きか』  
「英語で歌を歌ったりチャンツを言ったりすること」や「友だちと会話すること」「日本語と英語の違いを知ること」「英語で友だちや先生の意見を聞くこと」などが

高く、概ね4観点を網羅した結果になっています。

- ・ 毎年、小3・4がブロンズ、小5・6がシルバーの「児童英検」を受験し、どちらも全体的に全国平均を数ポイント上回っています。経年比較で見ると、得点が上昇し個人差も減少してきています。



- ・ 保護者アンケート『英語を楽しんでいると思うか』  
肯定的意見が95%を超え期待も大きく支持的です。

### (2) 課題

- ・ 文字指導を含めたアルファベットの効果的な定着方法のあり方
- ・ 音韻認識力の見取り方や、Can-Doリストに基づいた効果的な評価の方法
- ・ リンクプログラムの活用による小中接続を意識し、中学校へスムーズにつながるための小6におけるより効果的な指導のあり方

## 5 おわりに

子どもたちは英語を楽しみ、正しく話すこと以上に自分の思いを伝えたい・話したいと意欲をもって一生懸命に他者と関わろうとしています。それに応えるには、教師自身も外国語を学んだり教えたりするのを楽しむことが、外国語教育推進の大きな力になると思っています。

日々の取り組みから、行きつく課題は「教員自身の英語運用力」をつけることが大切であると感じています。

そのためには、全教職員が一つになって、楽しみながら日々の実践を含む校内研修を充実させることが、教員の指導力向上につながると強く認識しています。

今後も、外国語教育推進校としての任を果たせるよう取り組んでまいりたいと思います。